

令和 2 年 3 月 2 日
教育長 答 弁 実 録
(教 育 委 員 会)

(問) 商業高校の改革について

今後、AIなどの先端技術の進展により、今の職業のうち47%の仕事が無くなっていく時代と言われている。そういった時代のうねりの中で、商業高校においては、情報処理や会計、ビジネス面の知識と技術を習得することを目的としており、プログラミング等を含めて柔軟に個人の個性や多様化に対応した学校と、生徒獲得競争にさらされるのではないかと考える。

そこで、ビジネスフロンティア校など名前を一新し、多様なニーズやデジタル化に対応したカリキュラムを組み込んだ教育システムを取り入れるなど、新しい商業高校としての改革が必要だと思うが、教育長の所見を伺う。

(答)

今日、グローバル化が急速に進展する中におきまして、広島県が持続的に成長・発展していくためには、地域の成長・発展を支えることができる人材から、国際機関など世界を舞台に活躍できるリーダーまで厚みのある人材層を形成する必要があります。

そうした中、商業科を含む専門高校につきましては、本県が目指す「学びの変革」を推進する役割を果たすことを期待しておりまして、その改革を進めているところでございます。

商業高校については、現在、関係校4校の教員が協力し、民間企業のアドバイザーも加えて、プロジェクト学習の要素を取り入れた、新しい学習プログラムを開発中であり、4月からの実施に向けて取り組んでいるところでございます。

また、商業科教員の資質向上を目的としまして、多くのビジネスパーソンが通う東京のビジネススクールや多様な学び方を提供しているN高等学校に教員を派遣するなど、実践的なビジネススキルや個々の生徒に応じた学習内容の最適化に関する手法等の習得に努めているところでございます。

今後は、企業や高等教育機関等との連携を更に深め、5年先、10年先を見据えたカリキュラムを実践することにより、全国に先駆けた商業高校の改革に取り組んでまいります。